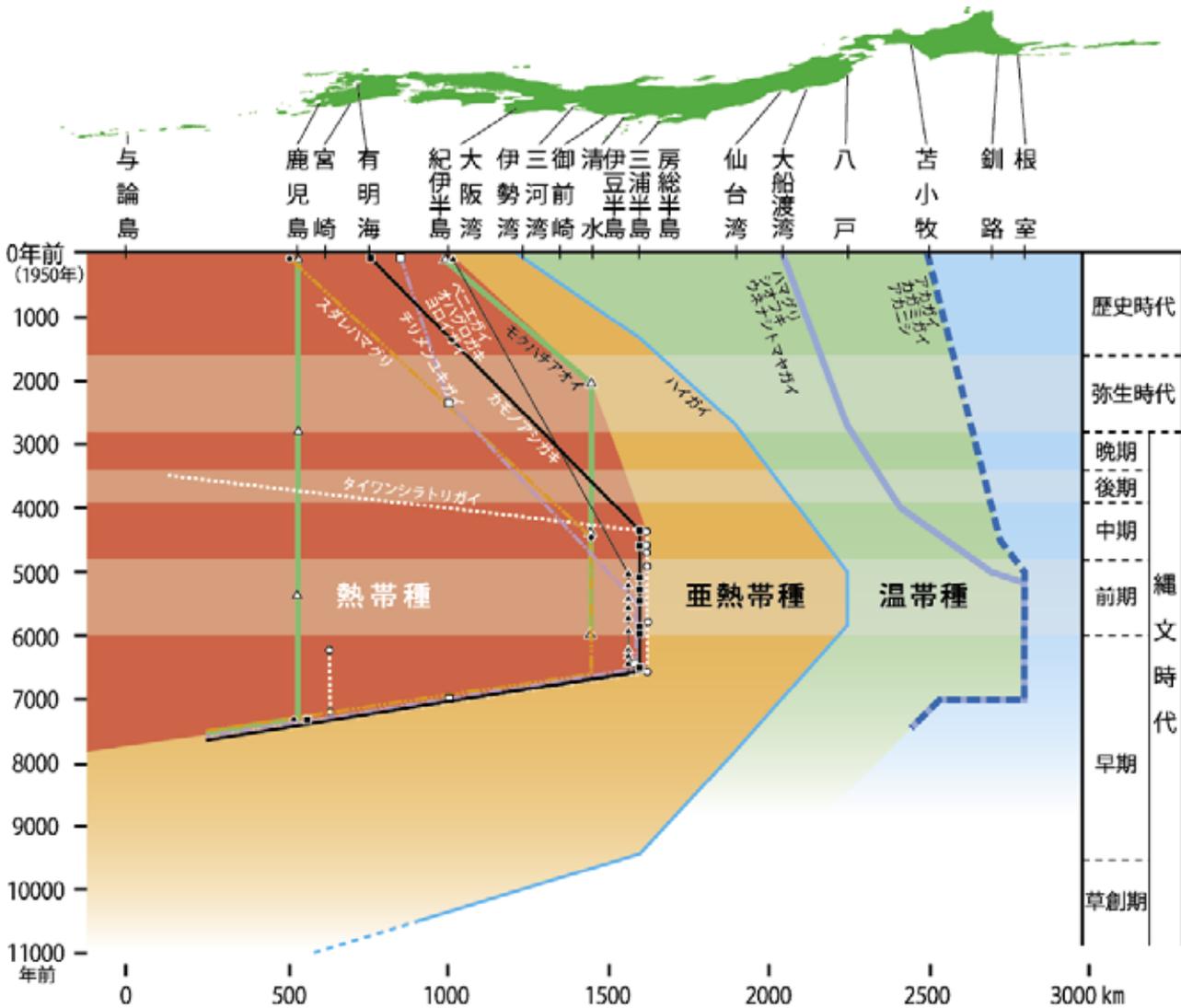


# 黒潮にのった温暖種



日本列島太平洋岸にみられる縄文海進に伴う温暖種の時空分布（松島、1984 に加筆）

日本の各地域で  
温暖種がちがうよ

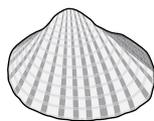
## 縄文時代における温暖種の消長

およそ 6500 年～ 5500 年前の縄文海進の最盛期には海面が現在より高かっただけでなく、海水温も高かったことが知られています。南関東でも、この時期につくられた多くの貝塚からはマガキやハマグリに混じって、ハイガイやシオヤガイといった貝

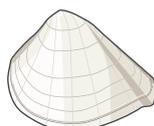
が出土しています。これらは南関東より高水温の西日本以南の内湾にすむ暖流系種です。このように現在の貝化石の産地より高水温の場所にすむ種を、その化石産地での温暖種とよんでいます。

上の図では縦軸に時間軸、横軸に日本列島の水平距離をとってそれぞれの温暖種の分布を示しました。縄文海進にともなって、黒潮によって貝の現在すんでいる場所からどれくらい北上したのか、図から読みとって下さい。

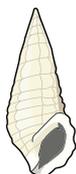
ハイガイ



シオヤガイ



コゲツノブエ



チリメンユキガイ



台湾シラトリ



カモノアシガキ



前ページの図からは、およそ1万年前からの温暖種の分布の移りかわりを読むことができます。南から北上してきた温暖種は、個々の種が出現し、消滅する時期のちがいから2つのグループに分けることができます。

第1のグループは、ハイガイやシオヤガイ、コゲツノブエといった亜熱帯種の貝類群です。第2のグループには、カモノアシガキ、チリメンユキガイ、台湾シラトリなどが含まれる熱帯種の貝類群です。

たとえば、第1のグループについて、南関東での亜熱帯種のハイガイの動きを見てみましょう。およそ9500年前に出現して広く分布しています。そして5000年前ころから少なくなりはじめ、およそ1500年前には消滅しています。同じグループのシオヤガイも約5000年前を境に滅んでいるようです。この約5000年前というのは、海面が下がり始めたとともに、砂底の海岸が発達した時期と重なります。

熱帯種の第2グループは、第1グループより遅れて約6500年前ころから出現し、約4200年前まで短い期間のみ南関東に分布していました。この熱帯種の中には、現在、台湾やフィリピンまでいかないと分布しない種類も見られます。どうやら、この時期は黒潮の勢いが現在よりもずっと強く、南方系の貝類を北上させていたのでしょう。

参考文献：松島義章，1984．日本列島における後氷期の浅海性貝類群集 - 特に環境変遷に伴うその時間・空間的変遷 - ，神奈川博研報（自然科学）。